

# タイル・ビューティー 洗淨マニュアル（外壁・外床）

## 1. タイル・ビューティーの用途

- ・ 外壁タイル（磁器タイル、レンガタイル）  
注意：ラスタータイル（酸性洗剤に弱い金属が表面に塗られている光沢のあるタイル）には使用できません。
- ・ 玄関前の床タイル、ビル、マンションの1階周りの外床タイル
- ・ 事務所や店舗のトイレ内の床タイル
- ・ 温泉地やプール内の床タイル

## 2. 適応する汚れ

- ・ 煤煙などの油、水アカ、カビ、シリコンオイル（シーリング材の油汚れ）、付着した鉄サビ
- ・ エフロッセンス（白華という炭酸カルシウム）  
（樹脂塗料や接着剤、ガムなどの人工付着物は分解できません）

## 3. タイル・ビューティーの特徴

タイル・ビューティーは、雨が直接当たる外壁タイルや外床タイルに付着した煤煙による油汚れや水アカ、シリコンオイル（シーリング材の油）等の汚れを落とす洗剤で、油分解作用を持つ茶葉を主成分とする植物性の洗剤です。

エフロッセンス（炭酸カルシウム）も分解する画期的な洗剤です。

## 4. 準備物

洗淨を行う現場には、以下の物をご用意下さい。

なお、汚れ分解した後、分解した汚れを洗い流さなくてはならないため、現場に水道水があるかを事前に確認しておいて下さい。

また、高圧洗淨機が電気稼働のタイプである場合は、電源があるかも事前に確認しておいて下さい。

### ■ 洗淨用具

- ・ タイル・ビューティー（18Lまたは4L）
- ・ 洗車用スポンジ（市販商品） 人数分
- ・ スコッチブライト等のナイロンタワシ（市販商品） 人数分
- ・ ゴム手袋（市販商品） 人数分
- ・ バケツ（市販商品） 人数分（洗剤用と水用）
- ・ 外壁タイル洗淨であれば高圧洗淨機
- ・ 外床タイル洗淨であればポリッシャーもしくはデッキブラシ



## 5. 洗淨の準備

### ① 保護養生

タイル・ビューティー（以下、本剤という）は酸性であるため、洗淨する箇所の周囲に下記ものがある場合、直接かかると変色、白濁してしまう可能性がありますので洗淨作業に入る前には養生し、保護して下さい。

#### ■ 全ての窓ガラス

#### ■ アルミサッシ、ステンレスなどの金属

- ・ 窓枠のアルミサッシ、ベランダのアルミ手摺り、排気口など
- ・ ステンレスの看板、ステンレス手摺りなど
- ・ ポスト、名盤・消火栓など

#### ■ 御影石や大理石などの石材

#### ■ 植木や花壇、植栽などの植物

#### ■ 洗淨付近に停めてある自動車

注意：窓ガラスを養生する際は、アルミサッシも一緒に養生して下さい。



### ② 洗淨および希釈倍率の決定

必ずテスト洗淨を行い、材質に対する本剤の影響（腐食、変色、光沢消失等）を確かめて下さい。

この段階で本剤を原液から3倍程度まで清水で希釈し、適切な希釈倍率を決定して下さい。

#### 【希釈目安】

築10年未満のタイルは水で3倍希釈

築10～15年のタイルは水で2倍希釈

築15～20年のタイルは水で1.5倍希釈

築20年以上のタイルは原液使用

#### 【洗淨実例】

築15年の外壁タイルの場合、外壁面は2倍希釈の本剤、タイルのアゴの真っ黒に汚れている箇所は1.5倍希釈の本剤を使用すると、本剤のコスト面からも効果的です。

注意：原液で使うと容易に汚れを分解できますが、洗剤を沢山使ってしまうとコストアップになりますし、原液は濃度が濃すぎるため、なるべく原液使用は避けて下さい。

## 6. 洗浄の手順

- ① 準備物を用意し、ゴム手袋を着用する。

準備物はブルーシートの上に設置し、本剤の移し換えは必ずブルーシートの上で行って下さい。



- ② 本剤を良く振った後、バケツに底から5 cmほど入れ、適切な希釈倍率で水を入れて希釈する。

以降、本剤が入っているバケツはブルーシートの上以外には置かないようにして下さい。

- ③ 本剤を入れたバケツにスポンジを浸し、本剤が滴り落ちない程度までスポンジを絞ります。

- ④ そのスポンジで、洗浄する箇所を塗り上げます。

汚れがひどい箇所は、塗り上げた後2～5分放置すると汚れが浮かび上がりますので、もう一度、本剤にスポンジを浸してから再度塗り上げて下さい。

外壁タイルを洗浄する場合、塗り上げる際に、スポンジから本剤が滴り落ちますので、バケツを壁面に近づけて受けるなどして、本剤の飛散を防いで下さい。

スポンジで汚れ（エフロレッセンスやアゴ部分の固化した黒い汚れなど）が落とすきれない場合は、市販のスコッチブライトを使用して擦り上げて下さい。



本剤をスポンジに浸す



本剤を洗浄箇所に塗り上げる



2～3度塗り上げていくと  
次第に汚れが落ちます



縁の汚れがひどい場合はスコッチ  
ブライトで擦る

- ⑤ 汚れが落ちたら、分解後の汚れを高圧洗浄して下さい。
- ・ 高圧洗浄する場合は、タイルやレンガの目地に沿って高圧洗浄し目地に発生しているカビを洗い流して下さい。
  - ・ 床タイルの場合は、ポリッシャーやデッキブラシを使用して汚れを洗い流して下さい。  
その場合、ポリッシャーの金属部に本剤が飛散すると変色しますのでご注意下さい。

## 7. 効果的な洗浄方法

- ① 洗浄作業は建物の上から下に向けて行います。なお、ゴンドラ作業の場合は、逆になる場合もあります。
- ② レンガタイルなどの吸水性の高いタイルは、事前に水をかけて、水で湿らせておいて下さい。  
理由は、水で湿らせずにいきなり本剤を塗ると汚れを分解する前に本剤を吸い込んでしまい、汚れが分解できなくなりますのでご注意下さい。
- ③ 壁面が水でかなり濡れている場合は、そこに本剤を塗ると本剤が汚れを分解する前に流れてしまいます。多少湿っている箇所で洗浄作業を行って下さい。  
特に外床タイルを洗浄する場合は、水が溜まっていると水膜ができて、ムラになって汚れが分解されてしまいますので、多少湿っている場合は問題ありませんが、外床タイルは濡らさずに本剤を直接外床タイルに塗って下さい。さらに、床の傾斜の下側から洗浄作業を行い、徐々に上側に洗浄作業を移行して下さい。
- ④ タイル目地やタイル表面に白い物質が付着していることがあります。これは、エフロレッセンス（炭酸カルシウム）または灰汁（炭酸ナトリウム）という物質です。エフロレッセンスは本剤で分解できます。しかし、炭酸ナトリウムは水をかけると消えて乾くと見えてくる白い粉です。この炭酸ナトリウムはタイルの下地から染み出てきている物質で、これを分解できる薬品はありません。  
この炭酸ナトリウムが発生している場合は、その対処方法をお伝えしますので当社にお問い合わせ下さい。
- ⑤ 水で洗浄できない物件（通行人が多いなど）の場合は、濡れた雑巾で本剤と分解された汚れを拭き上げなくてはなりません。拭き上げの場合、本剤の酸性成分が残留してしまい、アルカリ性の目地のモルタルに悪影響をもたらしてしまいます。  
拭き上げの物件の場合は、その対処方法をお伝えしますので当社にお問い合わせ下さい。

## 8. 使用上の注意

- ・ 必ず作業前に保護メガネ・ゴム手袋等の保護用具を着用して下さい。
- ・ 保護養生しなくてはならないものは、必ず保護養生して下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は、水または温水で洗い流した後、石けんで十分に洗って下さい。痛みやかぶれなど異常を感じた場合は、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。目に入った場合は、ただちに大量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。また誤って飲み込んだ場合は、ただちに大量の流水で口をすすぎ、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ・ 通行人等の第三者への汚水の飛散に注意して下さい。
- ・ 塩素系洗剤等とは併用及び混ぜないで下さい。
- ・ 直射日光を避け、30℃以下の場所で保管して下さい。
- ・ 本来の用途以外に使用しないで下さい。